

実施報告 第48回 歴史散策「明智光秀を訪ねて」

令和2年10月24日（土）、親鴨関西支部恒例の歴史散策を実施しました。今回は16世紀、京都、滋賀に明智光秀を訪ねました。NHK大河ドラマ「麒麟がくる」にちなんでの企画です。

新型コロナウイルスの影響で自粛モードの昨今、春の歴史散策は中止しましたが、今回は開催することにしました。

午前9時30分に阪急京都本線烏丸駅に集合。さすがに参加者は総計5名にとどまりました。

9時40分出発、四条通り、錦小路通りを西へ、油小路を右折し北へ、そして本能寺址へ到着。明智光秀が織田信長を急襲する「本能寺の変」が起こった場所です。東西100m、南北200mの広大な寺院であったそうですが、今はただひっそりと碑が建っているのみです。運よく通りかかった観光ボランティアの方がガイドをして下さいました。裏話も含め楽しい話を聞くことができました。



後列左から利谷久男さん、村田秀郎さん、下垣俊雄さん、西野信夫さん、
前列：西田義雄

本能寺址をあとにしてお池通りを東へ。途中、以前日本IBM京都事業所のあったビルの前を通り、寺町通りまで歩きました。



廟参拝のあと豪壮な本堂に上がらせて頂き日蓮上人の像に礼拝致しました。

本能寺を後にし、三条通りを東山の方角へ歩く。
白川を渡った所を右折してすぐ、明智光秀の首塚があります。

稀代の悪人とされた光秀の首塚は人家のすき間、人影のない狭い地の祠に葬られていました。光秀の首塚は各地にいくつか存在しますが、場所から見てこの地が本命のように思えます。光秀は山崎の合戦で秀吉に敗れ、坂本城へ落ち延びる途中命を落とします。その首は本能寺で晒され、さらに粟田口刑場でも晒されたそうです。粟田口刑場は今いる首塚の近くです。

祠の中には光秀の木像と位牌が祀られています。かつては遺骨や衣服の切れ端も祀られていたそうです。



近くの食堂で昼食後、地下鉄東西線、JR湖西線と乗り継いで比叡山の麓、比叡山坂本駅へ到着。東は琵琶湖、西は比叡山です。

坂本駅から、東南へ約20分、坂本城の二の丸、三の丸が存在した辺りを通り抜け、琵琶湖のほとり坂本城本丸址へ向かいました。坂本城は信長の命により光秀が築いた、琵琶湖の水を引き入れる水城です。大天守、小天守を持ちその姿は非常に豪壮であったといえます。今はその遺跡は殆ど何もありません。

唯一残っているのは、石垣。普段水中に隠れている石垣が渇水時など琵琶湖の水位が下がった時には現れるそうです。

青空の下、琵琶湖の対岸の三上山や長命寺山が良く見え、本当に美しい風景でした。



本丸址の傍には明智塚と呼ばれる供養塚がありました。鳥居と2基の石灯籠で守られる小さな塚です。明智光秀秘蔵の愛刀・郷義弘作の脇差などが埋められているそうです。

すぐ傍の個人の方が管理されているようでした。



坂本城本丸址の南には、坂本城址公園があります。数人の観光ガイドさんがおられて、私達も坂本城の歴史や光秀の生涯について説明いただきました。イラストなどを使い、分かりやすいガイドで、よく理解できました。

公園には光秀像があり、その傍には鳥羽一郎の演歌「光秀の意地」の歌碑、録音した歌の演奏があり、楽しめました。



好天に恵まれた秋の一日。明智光秀を理解し楽しむいい一日でした。

文責：西田義雄